

令和4年度 専修大学玉名高等学校
「学校評価アンケート」の結果について

専修大学熊本玉名高等学校
校長 渡辺 正隆

本校では、令和5年3月に学校評価アンケートを実施しました。実施にあたりましては、多くの生徒及び保護者の皆様からご協力いただき、誠にありがとうございました。

この度のアンケートでは、学校生活全般・学習・生徒指導・進路指導など本校の教育活動全般にわたって評価していただきました。

これらの評価を真摯に受け止め、学校改善に取り組むとともに、次年度の学校教育づくりに努めていきたいと考えています。今後も保護者の皆様方のより一層のご支援をお願いいたします。

○掲載内容

- ①生徒アンケート集計結果
- ②保護者アンケート集計結果
- ③本校教職員アンケート集計結果

令和4年度学校評価アンケート結果を受けて

令和4年度のアンケート結果のうち生徒を見てみると、「学校生活全般」、「生徒指導」、「進路指導」、「特別活動」、「健康安全」の項目で肯定的な割合が高く示されました。肯定的な割合が低い「学習」項目でも65%で昨年度より上昇しています。保護者と職員のアンケート結果も同様の傾向がみられます。

生徒の結果のうち「学校生活は楽しい」、「目的・目標を持って生活している」、「あいさつをよくする」、「校則を守って生活している」、「スマホ・ケータイ(SNS)は適切に使用している」、「先生は進路について適切な指導をしてくれる」、「学校行事に積極的に取り組んでいる」、「部活動が活発である」は肯定的な答えが80%を超えており、その他の項目も肯定的な答えが70%を超えています。そのような中で肯定的な答えが低かったのが「資格取得に積極的に取り組んでいる」(54.3%)と「読書の時間はまじめに取り組んでいる」(57.1%)でした。しかし、それでも昨年度に比べて3.3%、2.1%とそれぞれ微増しています。読解力や表現力などは簡単に身につくものではありません。日ごろから読書に取り組むことが大切です。再度、朝読書の意義を生徒に伝え、学年、クラス担任、図書と協力していきます。

令和3年度から1年生と2年生は年3回(3年生は2回)国語、数学、英語のベネッセ基礎力診断テストを実施し、生徒の学習到達度や生徒の強みを測定しています。テスト前は教科ごとにONE WEEKトライアルで事前学習に取り組み、テスト終了直後は振り返りを行いました。GTZ(学習到達ゾーン)が下がった生徒もいます。しかし、生徒の事前の取り組みをアンケート結果で見ると各学年とも前回より増加していました。今よりも上のGTZを目指している生徒の意識の表れだと考えます。

この春、本校は更なる発展をめざして、校名を「専修大学熊本玉名高等学校」に変更し、「総合ビジネス科」を「国際ビジネス科」に変更しました。それに伴い、先日玉名市との間で「玉名市と専修大学熊本玉名高等学校との包括的連携協定」を締結いたしました。この協定を活用して、地域課題の発見とグローバルな視点を持つ人材を育成し、持続可能な社会の実現に寄与します。

尚、保護者から頂いたご意見は、真摯に受けとめ検討させていただきます。全職員で改善し、次年度に活かしていきたいと思えます。

引き続き皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。